

生見尾踏切の安全対策の進め方について（報告）

1 経緯

鶴見区にある生見尾踏切は、いわゆる「開かずの踏切」であり、平成25年8月に、ご高齢の方が横断しきれずに電車にはねられ死亡する痛ましい事故が発生しました。

本市では、痛ましい事故が繰り返されないよう、バリアフリー化のほか自転車が載せられる大型エレベーターを設置する新たなこ線人道橋を整備したうえで、踏切を廃止する抜本的な対策を行う計画として進めてきました。

2 これまでの進捗状況

昨年度までに、必要な用地取得や施工条件等を整理した詳細設計を実施し完了しました。その結果、鉄道関係施設の移設に時間を要することや夜間の限られた時間での施工となり、工期が長くなることから完成まで6年程度かかる計画となりました。

3 地域からのご意見

踏切廃止にご理解をいただいている意見がある一方で、近隣地域の方々からは、踏切が廃止されることによる利便性の低下や地域の分断・衰退の懸念から、踏切閉鎖に反対する意見があります。

4 今後の進め方

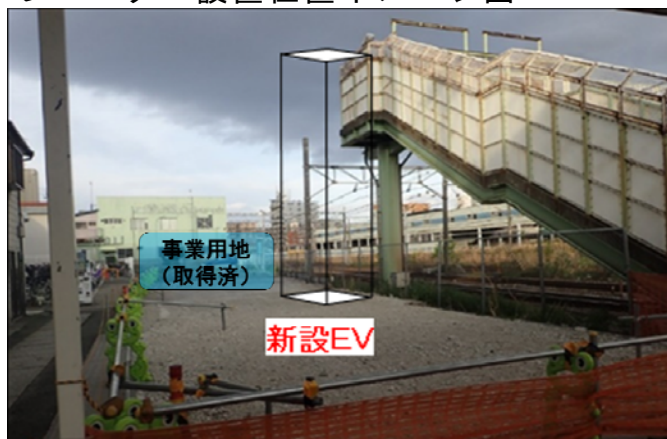
踏切閉鎖へのご理解や新設のこ線人道橋の工事に時間を要することから、高齢者などへの対策として、既已取得した事業用地を活用し、既設のこ線人道橋へエレベーター（人のみ）を設置する速効対策を実施します。

また、新設のこ線人道橋の整備は、踏切閉鎖への地域のご理解を得てから抜本対策として実施することとし、引き続き、踏切が残るリスクなどについてご説明をしていきます。

位置図



エレベーター設置位置イメージ図



【参考イメージ】生見尾踏切 安全対策の整備イメージ

